

太白区長町第二地区民生委員児童委員協議会

(平成 26 年 1 月 10 日掲載)

(1) 長町第二地区の特色と被災状況

仙台市南部に位置する当地区は、活気溢れる商業地域であり、交通便利な住宅地域として暮らしやすく、さらに市の南部拠点として開発が進み、高層マンション、住宅が増え続けています。その一方で、古い戸建やアパートも多く、高齢化の進む地域と子育て世帯地域が混在していることも特色です。

震災による津波被害はありませんでしたが、地盤沈下や道路の亀裂、陥没があちこちに生じ、全壊した高層マンション等も見られました。家屋の損壊は数え切れず、家の中は散乱状態でした。

発災翌朝には、スーパーの屋外販売やガソリンスタンドには長蛇の列ができました。



スーパーに並ぶ列

(2) 避難所

指定避難所（長町小学校、長町南小学校）は、発災後間もなくマンション住民、帰宅困難者（大型ショッピングモールの客、旅行者等）で溢れ、要支援の地域住民、高齢者は自宅待機を余儀なくされました。長町小学校地区では民生委員・児童委員の情報を生かし、在宅避難者 300 名に救援物資（保存食、カイロ、芋等）を配布し、対応しましたが、各避難所において大きな課題となりました。



バスの避難所

震災直後から 3 日間、市交通局長町営業所ではバス 3 台を緊急避難所として、近隣の全壊したアパート住民に開放しました。「心身共に温まり、元気が出ました」「不安な夜、みんなと過ごせて心強かった」と涙を浮かべ、所長の英断に感謝する声が今でも聞かれます。

避難所生活が長引くほど、避難所の“和”が大切となります。長町小では避難者の意見、要望をもとに、交流の場・ストーブ会議、日帰り温泉入浴会、演芸カラオケ会を催しました。それを機に避難所の雰囲気は明るくなり、会話も増えました。被災者の辛い思いに共感し、支え合い、ともに笑い、楽しむことから“和”は生まれてくるようです。閉ざされた心を開く鍵は「笑顔」でした。どんな時でも「笑顔」を忘れてはいけないと実感しました。

(3) 現在の状況と活動

損壊建物の解体撤去が進み、空地が増えた地域、新築家屋、マンション等の増加地域と新旧の混在化が進み、世帯数も流動的となっています。関係者の情報交換をより密にして実情の把握に努め、相談支援を行なっています。

復興支援として、町内会連合会、各種福祉団体と協力しながら下記の活動にも取り組んでいます。



挨拶運動（JR長町駅）

*防災訓練—「地域の住民として活躍する中学生」

中学生の高齢者安否確認訪問に同行、協力。今年度は1年生を中心に11月26日に実施。

*みなし仮設住宅入居者支援—町内会行事への参加呼びかけ。社協見舞金配布。見守り活動。

*小・中学校「復興プロジェクト行事」に協力、参加。—「朝の挨拶運動」「募金」の実施。